日本証券金融株式会社

2024年3月期 第3四半期 決算説明資料



2024年3月期 第3四半期決算の概要	
■ 1. エグゼクティブ・サマリー(連結)	Р3
■ 2.2024年3月期 第3四半期 決算サマリー (連結・個別)	P 4
■ 3.2024年3月期 第3四半期 日証金(単体)決算サマリー	P 5
■ 4. 決算のポイント ①貸借取引残高の状況	Р 6
■ 5. 決算のポイント ②セキュリティ・ファイナンス業務の状況	P 7
■ 6. 決算のポイント ③有価証券運用の状況(日証金単体)	Р8
■ 7.2024年3月期 第3四半期 日証金信託銀行 決算サマリー	Р9
■ 8. 2024年3月期 業績試算値	P10
■ 9. 株主還元	P11
■参考資料	P12~30

1. エグゼクティブ・サマリー (連結)



(単位:百万円)	2024年3月期			ハイライト
(单位:日刀口)	3Q累計	前年同期比	増減率	ハイノイト
営業利益	8,945	+2,240	+33.4%	✓ 貸借取引残高が融資・貸株ともに増加✓ 債券レポ・現先取引および株券レポ取引等を中心にセキュリティ・ファイナンス業務が引き続き好調
経常利益	9,735	+2,150	+28.4%	
当期純利益	7,060	+1,148	+19.4%	

2. 2024年3月期 第3四半期 決算サマリー (連結・個別)



		日訂	[金グループ連	結	
	(単位:百万円)	24年3月期 3Q累計	前年同期比	(増減率)	
営	業 収 益	37,041	+5,403	(+17.1%)	
	除〈品貸料	31,335	+2,548	(+8.9%)	
 営業 	費用	22,612	+3,029	(+15.5%)	
	除〈品借料	16,906	+175	(+1.0%)	
 一般 	管理費	5,483 +132 (+2		(+2.5%)	
営	業 利 益	8,945	+2,240	(+33.4%)	
経:	常利益	9,735	+2,150	(+28.4%)	
	持分法投資損益	348	+116	(+50.1%)	
特別	削損益	18	▲652	(△97.2%)	
	:社株主に帰属 当期純利益	7,060	+1,148	(+19.4%)	

グループ各社個別

日本証券金融		日証金信	言託銀行	日本ビルディング		
	前年同期比		前年同期比		前年同期比	
34,149	+5,264	2,399	+24	912	+12	
28,443	+2,410					
22,629	+3,224	83	▲305	21	+1	
16,923	+370					
4,521	+184	812	▲30	451	▲22	
6,998	+1,855	1,503	+360	440	+33	
9,503	+936	1,504	+360	550	+35	
18	▲ 652	_	(—)	_	(—)	
7,477	+53	1,040	+252	364	+23	

3. 2024年3月期 第3四半期 日証金(単体)決算サマリー



日本証券金融(単体)

(単位:百万円)	24年3月期 3Q累計	前年同期比	(増減率)
営業収益*	28,443	+2,410	(+9.3%)
営業費用*	16,923	+370	(+2.2%)
営業総利益	11,520	+2,040	(+21.5%)
貸借取引業務	2,783	+515	(+22.7%)
セキュリティ・ファイナンス業務**	5,941	+1,875	(+46.1%)
その他(主に有価証券運用)	2,794	▲ 350	(△11.1%)
一般管理費	4,521	+184	(+4.3%)
営業利益	6,998	+1,855	(+36.1%)
経常利益	9,503	+936	(+10.9%)
特別損益	18	▲ 652	(△97.2%)
当期純利益	7,477	+53	(+0.7%)

^{*「}品貸料」および「品借料」を除いたベース

主なポイント

●営業総利益

- ✓ 貸借取引およびセキュリティ・ファイナンス業務は、 残高が増加したことなどにより大幅増益
- ✓ その他(主に有価証券運用)は、前期に実施したポートフォリオ入替により生じた売却益の反動減等のため、前年同期比で減益となった。

●経常利益

✓ 前年度に行ったグループ内の効率的な資本配分実現のための配当が剥落したため、連結子会社2社からの配当金額が同期比で742百万円減少。ただし、連結消去により連結決算への影響はなし

●当期純利益

✓ 前期計上の退職金制度変更に伴う特別利益 671百万円が剥落

^{**} 一般信用ファイナンス、株券レポ取引等、リテール向け、一般貸株、債券レポ・現先取引

4. 決算のポイント ①貸借取引残高の状況



■ 融資・貸株残高ともに前年同期を上回る水準で底堅く推移

(単位:億円)	2022年度				2023年度					前年同	司期比	
(半位:18日)	1Q	2Q	上半期	3Q	1Q-3Q	1Q	2Q	上半期	3Q	1Q-3Q	3Q	1Q-3Q
融資平均残高	2,485	2,562	2,524	2,531	2,526	2,798	2,684	2,741	2,593	2,691	61	164
貸株平均残高	1,561	2,154	1,859	1,839	1,852	3,012	2,432	2,721	2,212	2,550	372	698



5. 決算のポイント ②セキュリティ・ファイナンス業務の状況



- 債券レポ・現先取引は、引き続き幅広い運用・調達ニーズの取込みが奏功し大幅増益
- 株式市場の活況等を背景に、その他の業務も全て増益

(単位:百万円)

	 取引種別	2024	I年3月期30	Q累計	主なポイント	
	「スプログランプリー		前年同期比	(増減率)	土なパインド	
	一般信用ファイナンス	167	+86	(+106.3%)	✓ 株式市場の活況を受けて残高が増加したことにより増益	
セキュ	株券レポ取引等	1,306	+191	(+17.2%)	✓ 株券レポ取引の残高が引き続き高水準で推移	
・ユリティ・	リテール向け	322 +41 (+14.7%) ✓ 適		(+14.7%)	✓ 適格担保の拡大など商品性改善も寄与して増益	
ファイナ	一般貸株	522	+154	(+42.1%)	✓ 株式市場の活況に加えてフェイル回避目的の借株需要の回 復などが寄与して増益	
イナンス	債券レポ・現先取引	3,621	+1,400	(+63.1%)	✓ 債券レポ・現先取引の残高が過去最高を更新	
	営業総利益 (セキュリティ・ファイナンス計)	5,941	+1,875	(+46.1%)		

6. 決算のポイント ③有価証券運用の状況(日証金単体)



■ 前期に実施したポートフォリオ入替により生じた売却益の反動減等のため、 前年同期比で減益となった。

有価証券の運用収支(日証金単体)

		2024年3月期 3Q累計	前年同期比
円	建て	2,926百万円	△4,696百万円
	国内債券	1,071百万円	△4,269百万円
	株式等	1,855百万円	△427百万円
外	貨建て	△92百万円	4,326百万円
7	の他とも合計	2,794百万円	△350百万円

(参考) 各国長期金利の推移 (*) Bloombergのデータを基に日証金作成 長期金利の推移 5.0% 4.0% 3.0% 2.0% 1.0% 0.0% 1.0% 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023

有価証券ポートフォリオの推移(日証金単体)



7. 2024年3月期 第3四半期 日証金信託銀行 決算サマリー



- 管理型信託サービス、とくにアセットバックローン信託が牽引し、信託報酬は増収
- 経常利益および当期純利益は、支払利息など経常費用が減少したことにより増益

日証金信託					
(単位:百万円)	24年3月期	前年	同期比	【信託	·幸促西州】
	3Q累計 		増減率		(百万円)
経常収益	2,484	+71	(+2.9%)		
うち信託報酬	1,168	+119	(+11.3%)	1,049	1,168
経常費用	980	▲288	(△22.7%)		
経常利益	1,504	+360	(+31.5%)	23年3月期 第3四半期	24年3月期 第3四半期
WI LD 4.3 TIT	1,304	1300	(1011070)	_	
当期純利益	1,040	+252	(+32.0%)		

8. 2024年3月期 業績試算値(2月5日修正)



試算値の前提条件とした貸借取引残高



(参考) 2023年3月期 平均残高



融資残高 貸株残高 2,547億円 1,889億円

	<i>,</i> ,,,,,		2024年3月期		
	(単位:百万	ī円)	試算値	前期比	前回 試算値比
日	証金グループ連結				
	営業利益		9,800	+3,445	+900
	経常利益		10,800	+3,198	+1,000
	親会社株主に帰属す	る当期純利益	7,800	+1,833	+800
グ	ーーフ ループ各社				
		営業利益	7,415	+3,024	+612
	日本証券金融	経常利益	9,989	▲ 285	+619
		当期純利益	7,809	▲ 1,493	+ 535
	日証金	経常利益	1,810	+394	+280
	信託銀行	当期純利益	1,256	+280	+195
		営業利益	570	+ 33	+20
	日本 ビルディング	経常利益	685	+33	+25
		当期純利益	450	+20	+15

<u><金利等前提条件></u> ●融資金利:0.60%、●貸株等代り金金利:0%、●貸株料:0.40%

<2024年3月期 試算値の考え方(2024年2月5日修正)>

・貸借取引業務、セキュリティ・ファイナンス業務ともに好調に推移した第3四半期累計の実績を踏まえ、2023年11月6日公表の前回試算値から上方に修正。

9. 株主還元



当社の1株あたり配当金および自己株式の取得額の推移



※2023年度通期業績試算値は、2024年2月5日公表。 上図における2023年度の1株あたり配当金は予想値、自己株式の取得額は取得枠の上限です。

2023年度株主還元

2023年度通期業績試算値 を上方修正したことに伴い、 配当予想を上方修正するとと もに、自己株式取得枠を追加 で設定。

● 配当予想

	今回	前回	比較
期末	30円	27円	+3円
年間	47円	44円	+3円

● 自己株式取得(追加)

5億円、33万株

配当予想:年間47円



自己株式取得:38億円



総還元性向 100.2%

*業績試算値ベース

参考資料

- 配当・自己株式取得の推移
- 連結業績の推移
- 業務別利益の状況
- 業務別営業収益の状況
- 業務別営業収益の対前年比増減分析
- 業務別取引残高の状況(平残)
- 有価証券の状況
- 2024年3月期 第3四半期連結貸借対照表(サマリー)

- 制度信用取引残高·貸借取引残高
- 信用取引・貸借取引の仕組み
- 貸借取引の収益構造
- 貸借取引金利について
- 連結会社の状況
- 外部格付けの状況
- 当社の業務内容(イメージ図)

配当・自己株式取得の推移



	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度 ^注 (予想)
一株当り配当金(年間)	22円	22円	26円	30円	32円	47円 (中間17円 期末30円
自己株式取得 (株数)	200万株	100万株	_	248万株	317万株	254万株
(金額)	12億円	5億円	_	23億円	30億円	38億円
総還元性向	87.8%	71.0%	60.1%	97.6%	97.6%	100.2%
当期純利益【連結】	37億円	35億円	39億円	51億円	59億円	78億円
一株当り利益【連結】	40.0円	38.4円	43.2円	56.6円	67.7円	91.3円
(参考)配当性向【連結】	55.0%	57.2%	60.1%	53.0%	47.2%	51.5%

注 2023年度(予想)について

- ・ 2023年5月9日取締役会決議の「自己株式取得」は2024年1月26日付で取得枠の金額上限(221万株、33億円)に達したため終了。
- ・「一株当り配当金(年間)」は予想値
- ・「当期純利益(連結)」は今回修正した業績試算値を記載。また、「総還元性向」、「一株当り利益(連結)」の指標は当該試算値を用いて計算。

● 連結業績の推移



単位:百万円

		19年3月期	20年3月期	21年3月期	22年3月期	23年3月期 3Q累計	23年3月期	24年3月期 3Q累計
営	業収益	24,321	29,101	30,924	30,138	31,638	42,518	37,041
	除〈品貸料	18,603	20,846	23,711	27,305	28,786	37,806	31,335
営	業費用	12,284	16,835	18,018	16,533	19,582	28,765	22,612
	除〈品借料	6,566	8,585	10,819	13,728	16,731	24,053	16,906
	般管理費	8,056	8,136	8,129	7,368	5,350	7,398	5,483
営	業利益	3,981	4,129	4,777	6,235	6,704	6,354	8,945
持	が法による投資損益	248	306	395	446	232	523	348
経	常利益	5,046	4,894	5,558	7,164	7,584	7,601	9,735
特	別損益	▲ 41	▲ 36	43	▲ 17	671	671	18
#	期純利益	3,765	3,556	3,971	5,174	5,911	5,966	7,060

● 業務別利益の状況



単位:百万円

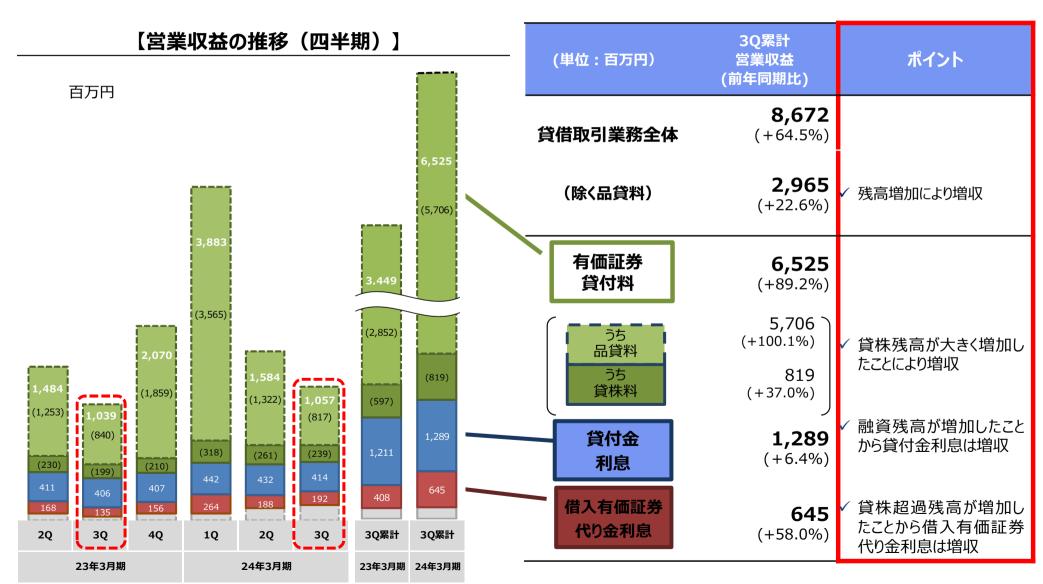
			営業収益		営業総利益		
		23年3月期 3Q累計	23年3月期	24年3月期 3Q累計	23年3月期 3Q累計	23年3月期	24年3月期 3Q累計
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	28,786	37,806	31,335	12,055	13,753	14,429
証	一 一 一 一	26,033	33,919	28,443	9,479	10,363	11,520
	貸借取引業務(除〈品貸料)	2,418	3,292	2,965	2,268	3,077	2,783
	セキュリティ・ファイナンス業務	15,750	21,976	21,762	4,066	5,850	5,941
	一般信用ファイナンス	95	149	185	81	130	167
	株券レポ取引等	1,126	1,529	1,320	1,114	1,514	1,306
	リテール向け	404	544	461	281	377	322
	一般貸株	584	799	771	368	496	522
	債券レポ・現先取引	13,538	18,953	19,023	2,220	3,332	3,621
	その他(主に有価証券運用)	7,864	8,651	3,715	3,144	1,434	2,794
信	託銀行業(単体)	2,374	3,364	2,399	1,984	2,616	2,315
不	動産賃貸業(単体)	900	1,197	912	880	1,162	891

注 グループ各社の数値は単体ベース(連結消去前)であり、合算しても連結営業収益および連結営業総利益の数値とは一致しません。

● 業務別営業収益の状況(貸借取引業務)



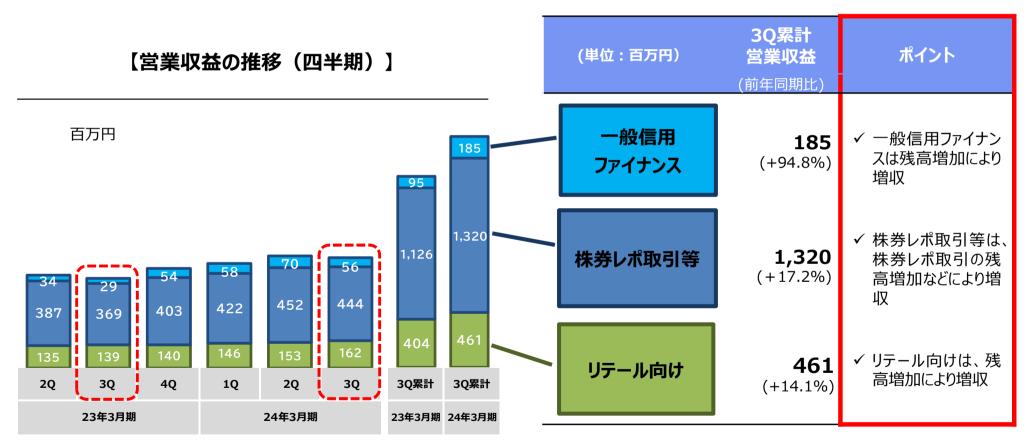
ロ 融資残高・貸株残高がいずれも増加したことにより、貸付金利息、貸株料ともに増収



● 業務別営業収益の状況(セキュリティ・ファイナンス業務①)



- ロ 一般信用ファイナンスは、株式市場の活況を受けて残高が増加したことにより増収
- ロ 株券レポ取引等は、株券レポ取引が引き続き好調のため増収
- ロ リテール向け貸付は、適格担保の拡大など商品性改善等も寄与して増収



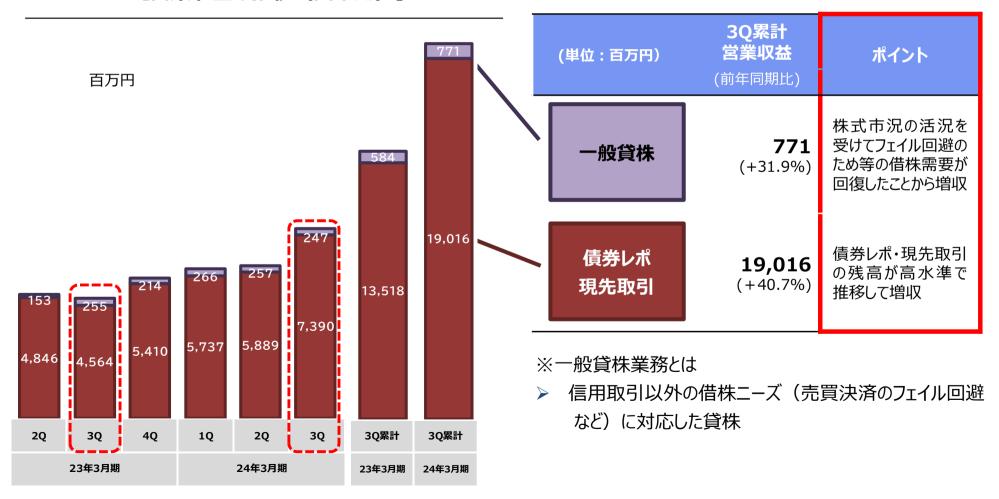
- < 当業務の商品構成 >
 - ◆ 株券レポ取引等
- ・・・ 株券レポ取引(現金担保付株券等貸借取引)、一般貸付、安定資金貸付
- ◆ リテール向け
- ・・・ コムストックローン、証券担保ローン・セレクト

● 業務別営業収益の状況(セキュリティ・ファイナンス業務②)



- ロ 債券レポ・現先取引は、国債需給の逼迫により取引ニーズが引続き旺盛であったことにより増収
- ロ 一般貸株部門は、株式市況の活況を受けて借株需要が回復したことから増収

【営業収益の推移(四半期)】



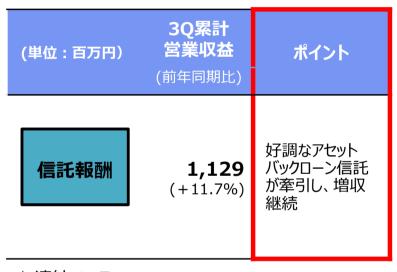
● 業務別営業収益の状況(日証金信託銀行)



ロ 株価上昇による顧客分別金信託の増加に加えて、 アセットバックローン信託が引き続き好調のため、信託報酬は増収

【信託報酬の推移(四半期)】





* 連結ベース

【主な信託商品】

顧客分別金信託

証券会社が顧客からの預り金を保全するための信託

外為証拠金信託

FX業者が顧客から受け入れた証拠金を保全するための信託

暗号資産関連信託

暗号資産交換業者が顧客から受け入れた預り金・証拠金を保全するための信託

アセットバックローン信託

金融機関向けの投資商品(アセットバックローン)を組成するに

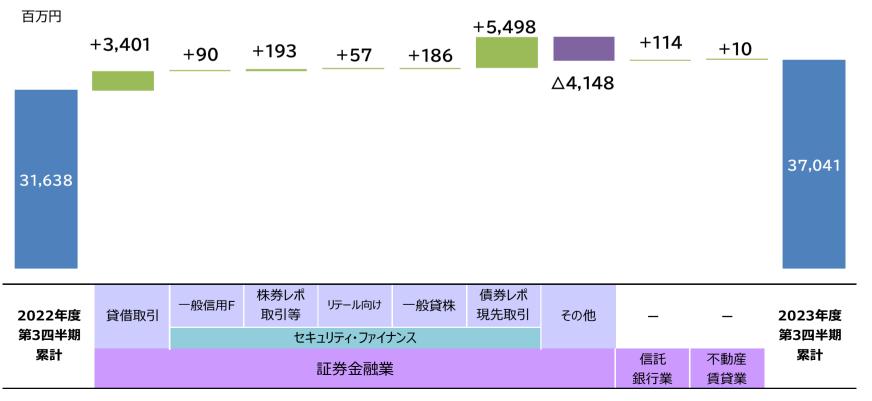
当たって、SPCに類似した機能を提供する信託

● 業務別営業収益の対前年比増減分析



<第3四半期(累計)のポイント・サマリー>

- ロ 営業収益は、前年同期比で5,403百万円の増加(+17.1%)
- ロ 貸借取引業務は、融資残高・貸株残高がいずれも増加したことにより増収
- ロ セキュリティ・ファイナンス業務は、旺盛な取引ニーズ等を背景に全ての業務で増収
- ロ その他は、有価証券運用業務において、前期に実施したポートフォリオ入替に伴う保有国債等の売却益が剥落したことにより減収(保有外国債の売却損も剥落したため営業費用も減少)
- ロ 信託銀行業は、信託報酬が引き続き好調な一方、資金運用における金利収入が減少



● 業務別取引残高の状況(平残)



単位:百万円

取引種類	2023年3月期 3Q累計	2023年3月期 通期	2024年3月期 3Q累計
貸借取引貸付金(融資)	252,690	254,701	269,161
貸借取引貸付有価証券(貸株)	185,271	188,918	255,081
セキュリティ・ファイナンス業務	11,634,905	11,473,992	12,787,747
一般信用ファイナンス	17,151	18,856	34,615
株券レポ取引等	687,642	697,788	764,377
リテール向け	16,446	16,759	19,735
一般貸株	52,153	63,342	125,274
債券レポ・現先取引	10,861,511	10,677,245	11,843,744
信託銀行貸付金	546,800	539,931	597,071

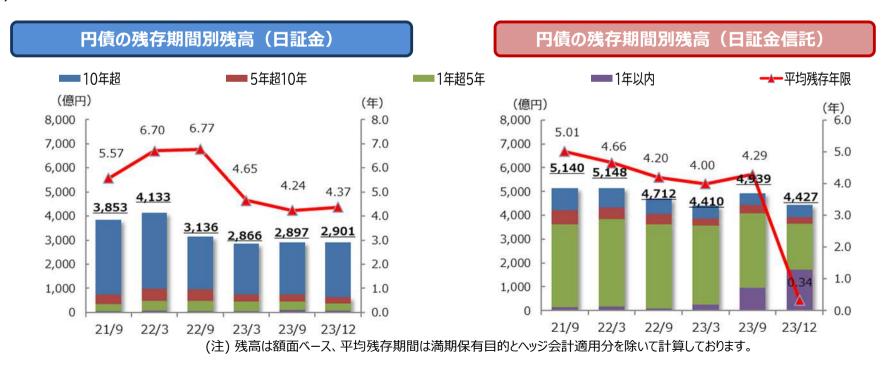
● 有価証券の状況



単位:百万円

	その他有価証券	23年3月末		23年1	備考	
	てい他有脚証分	BS計上額	評価損益	BS計上額	評価損益	11#175
株式等		23,233	10,349	29,493	16,748	
債	責券	768,722	▲ 16,048	816,794	▲ 21,690	
	国債·地方債	356,081	▲ 11,630	344,517	▲ 18,626	
	社債	340,053	▲ 536	396,985	▲ 545	政府保証債等
	その他	72,587	▲ 3,881	75,291	▲ 2,518	外国国債等
₹	の他	16,167	2,623	14,997	2,578	
4	計	808,123	▲ 3,075	861,285	▲ 2,363	
(含むデリバティブ)		_	(7,416)	_	(12,838)	

(注)評価損益は、デリバティブによるヘッジ効果を除いたベースです。



● 2024年3月期 第3四半期 連結貸借対照表(サマリー)



単位:百万円

		2023年12末	23年3月末比	内容			
資産合計		16,802,503	+2,746,285				
	現金及び預金	1,502,000	▲96,274	日本銀行当座預金			
	有価証券	271,317	+200,303	残存1年以下の国債等			
	営業貸付金	1,073,159	+117,608	貸借取引貸付金/一般信用ファイナンス /一般貸付金/信託銀行貸付金			
	買現先勘定	6,202,851	+2,641,444				
	借入有価証券 代D金	6,613,887	▲ 55,933	債券レポ取引、株券レポ取引および貸借取引 借株の差入担保金			
	投資有価証券	598,692	▲ 146,928	残存1年超の国債等 政策保有株式等			
負債	合計	16,661,271	+2,740,781				
	コールマネー	1,601,400	▲ 589,000				
	短期借入金	82,010	▲ 11,000	日本銀行オペレーション 銀行借入金			
	СР	415,066	▲35,933				
	売現先勘定	8,518,461	+3,736,660				
	貸付有価証券 代D金	4,404,948	▲668,827	債券レポ取引および貸借取引貸株の受入担 保金			
	信託勘定借	1,014,540	+143,205				
	長期借入金	447,900	+215,200	日本銀行オペレーション			
純資	産合計	141,231	+5,503				

【参考】自己資本規制比率(金商法ベース)2023年12月末時点:428%

バランスシートの特徴とリスク管理

近年、注力してきましたセキュリティ・ファイナンス業務の中でも債券レポ・現先取引は、取引ロットが大きいことから、業務の成長に伴いその残高が大きく増加しています。その結果、バランスシートが大きくなる傾向にあります。

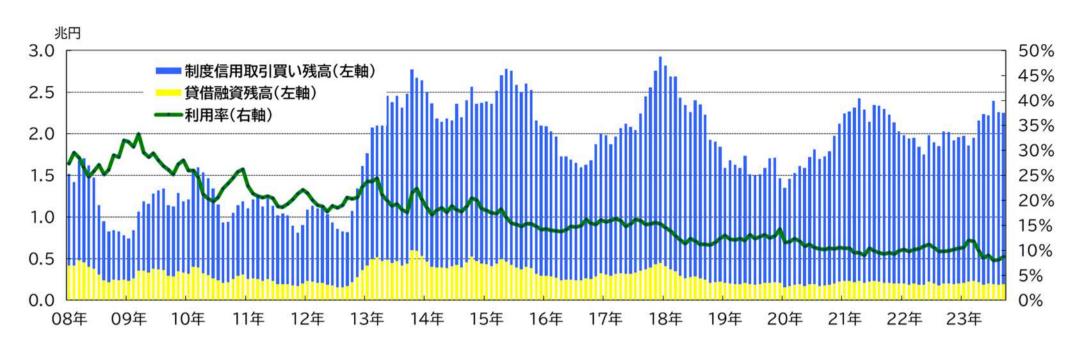
債券レポ・現先取引は貸し手と借り手のニーズをマッチングさせる取引であることから、左記のとおりバランスシート上、資産(借入有価証券代り金、買現先勘定)・負債(貸付有価証券代り金、売現先勘定)の両建てで増加します。当該取引では、取引対象債券の担保として債券時価相当額の現金を受払し、取引期間中は日々時価評価を行い、マージンコール(現金担保と債券時価額との差額を受払)を適切に実施することでエクスポージャーを抑制しています。また、取引先の殆どが信用度の比較的高い金融機関もしくは中央清算機関による債務引受の対象となっております。こうしたリスクコントロールによって、バランスシート・取引残高が拡大する中にあってもエクスポージャーと信用リスクの増加は抑えられております。

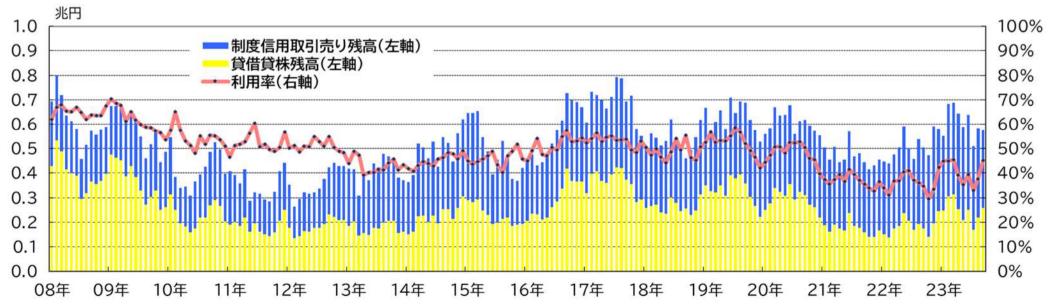
その他のセキュリティ・ファイナンス業務についても、債券レポ・現先取引と同様のリスクコントロール手段に加え、取引対象株式のボラティリティや市場流動性等に応じて適切なヘアカット(掛目)を設定し、エクスポージャーの拡大を抑制しています。

また当社は統合リスク管理の枠組みのもと、日次で信用リスク量を計量し、当社の経営体力を踏まえて設定したリスク資本の枠内に収まるように管理しています。また取引先別にストレス時を想定したエクスポージャーが一定の限度内に収まっていることを日次でモニタリングし、特定の取引先への過度なエクスポージャーの発生を抑えています。

制度信用取引残高·貸借取引残高

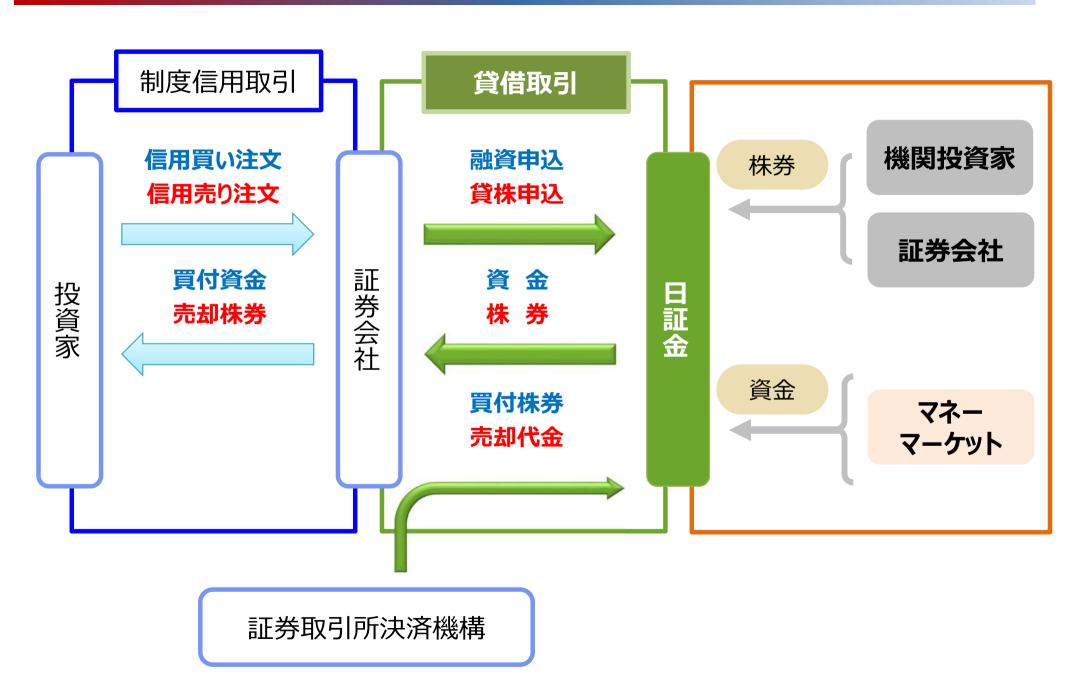






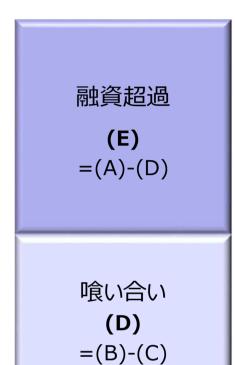
● 信用取引・貸借取引の仕組み



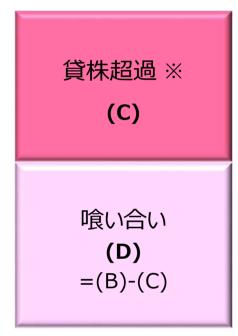


● 貸借取引の収益構造





融資残高 (A)



貸株残高 (B)

損益計算書

【営業収益】

貸付金利息=(A)×0.60%

有価証券貸付料(貸株料)=(B)×0.40%

借入有価証券代り金利息 = (C)×0.60%

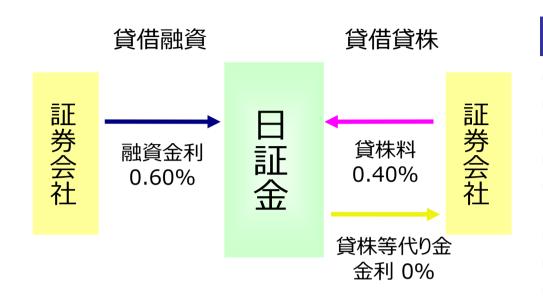
【営業費用】

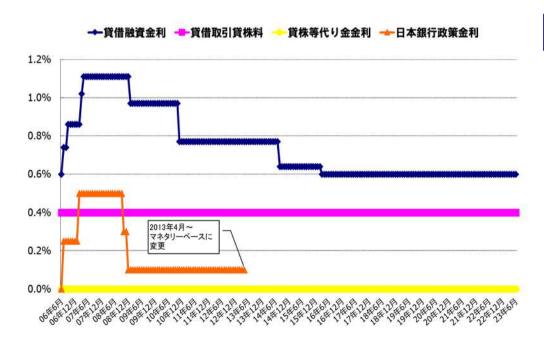
支払利息 = (E)×調達金利

※ 貸株超過銘柄の一部に品貸料(逆日歩)が営業収益(有価証券貸付料)として発生するが、 同額が営業費用(有価証券借入料)として計上されるため、当社の利益には影響しない。 【営業収益】有価証券貸付料(品貸料) = 【営業費用】有価証券借入料(品借料) = (C)×品貸料率

● 貸借金利について







日本銀行の金融政策

- 2006年7月 無担保コールートO/N: 0.25%
- 2007年2月 無担保コールートO/N: 0.50%
- 2008年10月無担保コールレートO/N: 0.30% (▲0.20%)
- 2008年12月無担保コールレートO/N: 0.10% (▲0.20%)
- 2010年10月無担保コールレートO/N: **0~0.10%**

 $(\triangle 0.10 \sim 0\%)$

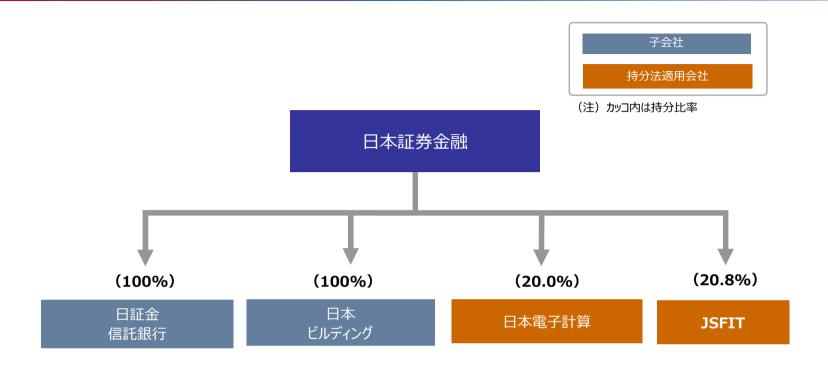
- 2013年4月 従来の金利からマネタリーベースに変更
- 2016年1月 マイナス金利付き量的・質的金融緩和を導入
- 2016年9月 長短金利操作付き量的・質的金融緩和を導入

貸借取引融資金利の変更

- 2006年 7月27日約定 **0.74% (+0.14%)**
- 2006年 9月22日約定 0.86% (+0.12%)
- 2007年 3月15日約定 1.02% (+0.16%)
- 2007年 4月 5日約定 1.11% (+0.09%)
- · 2009年 1月29日約定 **0.97% (▲0.14%)**
- 2010年11月22日約定 **0.77%(▲0.20%)**
- 2014年 8月 6日約定 **0.64%** (▲**0.13%**)
- 2016年 3月 9日約定 **0.60% (▲0.04%)**
 - ◆貸借取引金利は、市場金利および日本銀行に よる金融政策の変更を適切に反映して設定する。

● 連結会社の状況





持株比率	会社名	資本金	業務内容
100%	日証金信託銀行(株)	14,000百万円	信託業務、銀行業務
100%	日本ビルディング(株)	100百万円	当社グループ所有の不動産の賃貸・管理
20.0%	日本電子計算(株)	2,460百万円	情報処理サービス、ソフトウェアの開発・販売
20.8%	ジェイエスフィット(株)	100百万円	情報処理サービス、ソフトウェアの開発・販売

● 外部格付けの状況



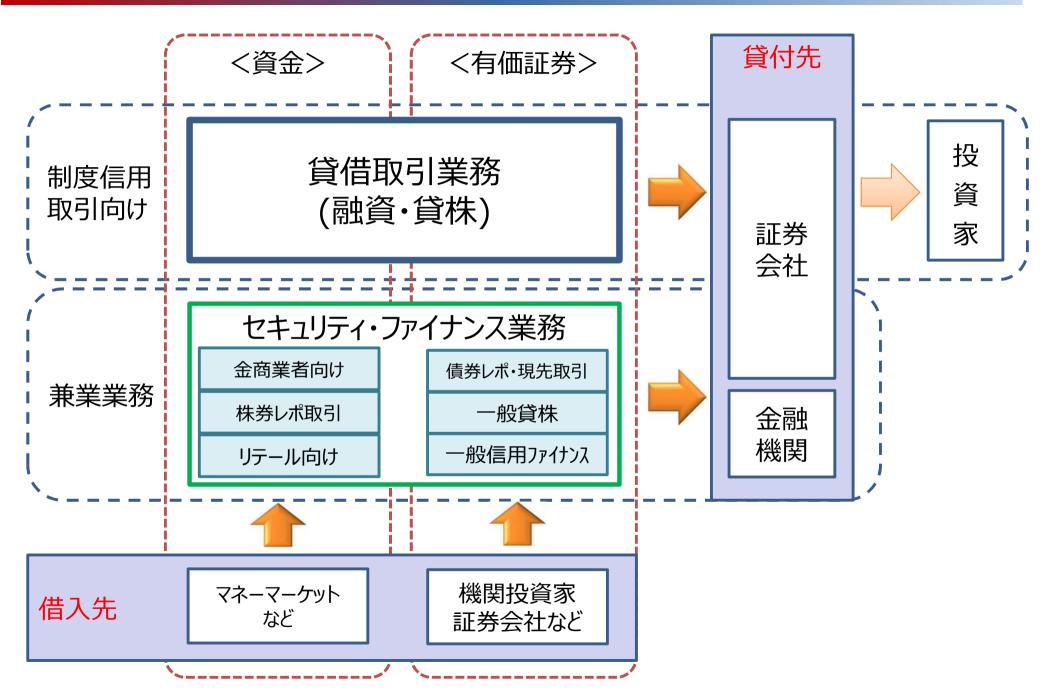
2023年12月31日時点		JCR (日本格付研究所)		R&I (格付投資情報センター)		Standard & Poor's	
		Rating	Outlook	Rating	Outlook	Rating	Outlook
日本証券金融	長期格付	AA-	安定的	AA-	安定的	А	安定的
	短期格付	J-1+ (最上級)		a-1+ (最上級)		A-1	
	CP発行枠	1兆円		1兆円			

[※]ユーロ円CPの発行枠30億米ドル設定(S&P)

日証金信託銀行	長期格付	AA-	安定的	AA-	安定的	<u>—</u>	<u>—</u>
	短期格付	J-1+ (最上級)		a-1+ (最上級)			_

● 当社の業務内容(イメージ図)





本資料には、業績に関わる記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確定要因を内包するものです。将来の業績は、株式市況・金融情勢などにより、大幅に異なる可能性があります。